

TEAM 花時。3月劇場公演中止についてのお知らせ。

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、3月25日より阿佐ヶ谷アルシェにて上演を予定しておりましたTEAM 花時。企画プロデュース公演第17ラウンド「ぼびい。あたし…母のラグビーボール’20」の劇場公演を中止する事を決断致しました。

劇場での公演を目指し、様々な対策を取り準備を進めておりましたが、日に日に不安要素の拡がりを見せる現状に、全関係者、そして何よりもお客様の健康面を第一に考え、今回の決断に至りました。

劇場での本番は中止という判断に至りましたが、何らかの形でお客様にこの作品をお届けできないか…、今できる努力は本当にもう無いのか、考えを巡らせました。

そんな折、今回、上演予定だった阿佐ヶ谷アルシェ支配人の岩崎様から「また時が来たら、劇場で上演しましょう。応援してます」と心強いお言葉を頂戴しました。理解ある人生の諸先輩の後ろ盾が本当に有難く、今一度、現状と向き合う勇気も頂いております。

今日までお客様に作品を届けたい一心で稽古に励んできたキャストさんや支えて下さって関係者の皆様の思いを、どうにか形に出来ないかを再考させて頂き、必ずご報告致します。

また、本日までご予約を賜って下さったお客様へも改めましてご連絡を致します。今しばらくお待ち頂ければ幸いです。

今回の中止に関しては以下の連絡先までお問い合わせ下さいませ。

【緊急お問い合わせ先】 (TEAM 花時。制作部 担当：高梨)

team.hanaji@gmail.com 対応等ですぐに返信が出来ない場合が御座います事をご了承下さいませ。

TEL：090-9677-8772 (10-18時) 稽古中や移動中など対応出来ない場合が御座います。

【TEAM 花時。を応援して下さっているお客様。お力添え頂いている関係者の皆様へ。】

主催団体 TEAM 花時。として、メンバーは勿論、客演様、スタッフ様、関係者の皆様と連携を取り、感染予防対策に努め、お客様に安全かつ安心して楽しんで頂けるよう、劇場での本番の実現に向け、日々汗を流して稽古に臨んでおりました。

世の中がこのような不安定な中で誰一人として後ろ向きな姿勢を見せず、台本に嚙り付き、芝居作りに励んで下さっていた俳優陣の皆様、また、準備段階から、ずっと裏方にて屋台骨を支えて下さっていたスタッフ様、事務所関係者様、関係各所の皆様、このような決断に至りました事をお詫び申し上げます。

そして、何よりも、こんな状況下にも関わらず、ご予約をして下さったお客様方へ。強い覚悟を持ってお申込み頂いたその思いに感謝の気持ちしか御座いません。公演を心待ちにして下さっていたお客様に改めましてお詫びさせて下さいませ。本当に申し訳ございませんでした。

劇場で上演できれば音響さんや照明さん、そして舞台セットなどの力が加わり、より世界観を広げることが出来るのが魅力であることは必至であり、その偉大なる力をお客様にお届けできないのは心苦しく、これまで準備を進めて下さっていたスタッフ様に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

先月末の段階では、様々な状況変化に細心の注意を払いながら、対策をしっかりととして上演に臨むつもりで御座いました。既にご予約頂いているお客様に作品を届けたい一心でありました。ウイルス収束を祈りながら、スタッフ・キャスト一同が本番を迎えられると信じて前進しておりました。しかしながら、世の中が自粛ムードの中で販促活動や宣伝活動を進めることへの抵抗や絶対の安全を確約しますと言い切れない空間に大切なお客様を招き入れることが今本当に正しいことなのか・・・日々移り変わる厳しい状況の中で1分1秒毎に、今何が最善なのかを問っておりました。

我々TEAM 花時。という団体は今年9年目を迎えました。これまでも様々な紆余曲折を経て、様々な困難にも立ち向かって参りました。乗り越えられないかもしれないと、足が竦む壁が立ちはだかった時、救って下さったのは、お客様の温かい拍手と声援でした。

私共未熟な団体を育て上げて下さったのはお客様です。そんな大切なお客様を今この状況下で劇場にお招きする事が最善だと、どうしても決断するに至らなかった次第で御座います。また公演を進めるということはキャストさん、スタッフさんにもリスクを負わせることであり、未来ある表現者の皆様に今このタイミングでこの公演に参加してもらうことが本当に未来に繋がる作品となるのか・・・座組一同、話し合いの場を持ち、議論し、今できることは「前進すること」ではなく「一度立ち止まって後ろを振り返って見ること」でした。これまで支えて下さった全関係者の皆様の命と向き合いたいと思いました。

今回の上演予定だった作品は2014年に上演したラグビーW杯応援作品の再演です。

ラグビーというスポーツは前進しながらボールを後ろにしかパス出来ないというルールが御座います。がむしゃらに前進する中で、後ろで支えてくれている仲間へのパスの繋がりによってゴールを目指せるスポーツです。そんな楽苦美の精神から教えて頂いたことを今こそ行動に移すべきと考えました。ラグビーW杯が盛り上がった時、『ONE TEAM』という言葉が日本をひとつに致しました。あれから数か月、ウイルスという脅威により演劇界だけでなく、たくさんの業種の方が大きな壁に立ち向かっております。

今こそ ONE TEAM の精神でこの壁を乗り越えられる強さを纏い、次の前進に向けて、後ろを振り返ってゆきたいと思います。

なお、今回の判断はあくまでも 2020 年 3 月現在の TEAM 花時。としての決断であり、現在も上演に向けて覚悟をもって公演続行をされておられる団体様におかれましては、その団体様の最善の決断として取り組まれておられるのだと思いますので、反対する気持ちや対立的判断という気持ちはなく、各々の判断を尊重させて頂きたく存じます。

違うタイミングであれば…、少しでも収束していれば…我々も公演続行の道を選択していたと思います。今回の決断に至るまでの間、様々な団体様や、表現者の方々のご意見やご決断から多くを考えさせて頂き、大きな影響を受け、私共は学ばせて頂きました。

この経験、勉強の時間を決して無駄にすることなく、強く逞しく、優しい団体となれるよう、精進してまいります。

1 日でも早く日常が戻りますように。劇場に足を運んで下さったお客様が安心してご観劇頂けますように。作品作り、劇場公演を行える環境が当たり前ではなく、とても贅沢なことだと改めて感じさせていただいたこの機会に感謝の気持ちを忘れずに前進するためのパスを繋いで参ります。

2020 年 3 月 10 日
TEAM 花時。一同